美瑛岳

美瑛町立美瑛中学校
学校だより
令和７年11月号

美瑛中学校　開校50周年

校長　佐　藤　雅　輝

しんしんと降り積もった雪が、あたりを一面の銀世界に変えました。校舎から眺める雪景色は、新しい季節の始まりを感じさせてくれます。先だって、美瑛中学校の開校50周年記念式典を行いました。町内外から多くのご来賓や地域・保護者の皆様にお越しいただき、生徒・教職員とともに祝うことができました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。大変恐縮ですが、以下に、式典当日に私がお話しした挨拶の抜粋を掲載します。ご一読いただければ幸いです。これからも美瑛中学校をどうぞよろしくお願いいたします。

令和７年、美瑛中学校は、開校50周年という記念すべき節目の年を迎えました。

本校は、昭和22年に美瑛第一中学校として誕生しました。そして、昭和51年、町内５つの中学校を統合して、新しく美瑛中学校として開校し、その後更に２つの中学校を統合して、現在に至ります。以来、幾多の困難を乗り越え、美瑛中学校を築いてこられた先達の方々に心から敬意を表すとともに、多くの同窓生が本校を巣立ち、町内はもとより全国各地のあらゆる分野で活躍されていることは、この上ない喜びと誇りです。この50年、社会情勢や教育情勢は大きく変化を遂げてきました。しかし、どのような時代にあっても、本校が大切にしてきたのは「地域に根ざし、生徒一人ひとりを大切にする学校である」という思いです。生徒や保護者に寄り添い、一人ひとりの可能性を信じ、自己肯定感を育む。どの生徒も「自分はここにいていい」「美瑛中学校の生徒でよかった」と感じられる学校であり続けること。それが本校の教育の原点であり、これからも変わることのない理念です。

生徒の皆さん。皆さんは今年度、体育祭・文化祭で、50周年を意識した取組に挑戦してくれました。その姿に、私は大きな喜びと頼もしさを感じています。皆さんは、これまでの50年の歩みを受け継ぎ、次の時代へとつなげていく世代です。「おんくりの精神」という言葉があります。“おんくり”とは、受けた恩をその人に返すのではなく、次の誰かへと送っていくという考え方です。これまでの先輩方が築いてきた思いや努力を、今度は皆さんが受け継ぎ、よりよい形で次の世代へとつないでいってください。そのためには、仲間の存在が欠かせません。よき仲間は喜びを倍にし、悲しみや苦しみを半分にしてくれます。仲間と励まし合い、支え合いながら一歩ずつ前へ進んでください。そうして成長していく皆さんこそが、この学校の未来です。

地域、保護者の皆様。本校が今日まで歩んでこられたのは、皆様の支えがあったからです。行事へのご参加とご協力、登下校の見守り、そして子どもたちへの温かなまなざし。まさに「子どもを真ん中に置く地域」である美瑛町の力を、日々実感しています。これからも私たちは、生徒一人ひとりの小さな成長を大切にし、すべての生徒が「自分の未来を見据え、限りない可能性に向かって自信をもって駆け抜けていける」よう、すべての教職員が力を尽くしてまいります。どうかこれからも、本校の歩みを温かく見守ってください。

これまで本校を支えてくださったすべての皆様に心から感謝申し上げます。そして、50年の歩みを受け継ぎながら「おんくりの精神」を胸に、次の50年へと新たな一歩を踏み出してまいります。美瑛中学校が、これからも生徒と地域に愛され続ける学校であることを願っています。

祝　開校 50 周年記念式典

11月15日（土）に、美瑛中学校開校50周年記念式典を行いました。令和６年に実行委員会を発足させてからこの間、多くの方々のご支援、ご協力をいただきながら準備を進めてきました。

当日は、前期生徒会役員が司会進行を務めたり、全校合唱『花は咲く』を披露したりと、生徒たちが活躍する場面もあり、厳かながらもどこか温かい雰囲気の式となりました。

この節目を機に、これまでの伝統を礎としつつ、未来を担う生徒たちが夢と希望をもって健やかに成長できるよう決意を新たにして教育活動を進めていきます。

宿泊研修（２年生）を実施しました

10月22日（水）、23日（木）に、２年生の宿泊研修を行いました。１日目の午前は、札幌市にあるオープンイノベーション施設「エア・ウォーターの森」を見学し、午後からはグループに分かれて各種専門学校訪問をしました。その後、砂川市まで移動し、「ネイパル砂川」に宿泊しました。

２日目は、赤平市の「植松電機」で、ロケット製作・打ち上げ体験を行ったほか、植松社長からのお話を聞きました。

１泊２日の日程でしたが、非常に充実した内容で、生徒自らが立てた「雲外蒼天～辛いことも楽しいことも認め合おう～」のスローガンの通り、仲間を認め合い、絆を深めつつ楽しい学びができました。

防災学習の様子

11月５日（水）に、１年生の総合的な学習の時間の一環で、防災学習を行いました。関係機関や企業の方の話を聞いた後、ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）を行い、避難所運営の疑似体験をしました。

グループごとに、避難所を開設した際に、どのようにスペースを振り分けるか考え、「お年寄りが寒くないように」、「ペットがいる家族はここに集めて」など、被災者の立場を考えながら学習を進めました。